

いとし

笹原由理

忙しなく
行き交う人波に
取り残される
亡き母のいない
年の瀬が
過ぎていく

切望

いつになったら
涙は止まるんだらう

いつになったら
心は苦しくなくなるんだらう

いつになったら
胸は痛くなくなるんだらう

いつになったら
いつになったら・・・

お母さんは
還ってくるのだらう

灯彩

煌めくイルミネーションが
溜まった涙に
降りそそぐ

眩いた呼びかけは
喧騒に消えていく

慟 哭

思い出と云うには
悲しすぎて
記憶と云うには
冷たくて

名前の付けられない
辛さに

打ちのめされそうになる